

## 社会学研究科心理学専攻後期博士課程 3つのポリシー

項目	卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
教育目標	慶應義塾大学の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を前提として、実証科学としての心理学について専門性の高い知識、技法を学際的、国際的に身につけ活用できること、それらをふまえた学位論文の執筆を行い、心理学について卓越した専門性、学際性、国際性をもつ自立した研究者、教育者、職業人を育成することを目標とします。加えて、教育課程において定める所定の要件を満たした学生に対し、博士（心理学）の学位を授与します。
資質・能力目標	<p>資質・能力目標（１）：心理学に関する非常に高度で実践的な専門的知識の獲得</p> <p>資質・能力目標（２）：心理学に関する実験的応用的研究の実施を可能とする高度な専門的技法の獲得</p> <p>資質・能力目標（３）：学際的に周辺領域へと接続可能な幅広い知識の運用能力、柔軟な発想力、独創性の獲得</p> <p>資質・能力目標（４）：将来にわたって社会的、国際的に貢献できる高度な専門性や汎用能力の獲得</p> <p>資質・能力目標（５）：自立した研究者として高度な学術研究を行うための課題設定・研究計画立案・研究遂行能力の獲得</p> <p>資質・能力目標（６）：後進の研究者・高度職業専門人の育成・指導を行うための高度かつ専門的な資質の獲得</p>

項目	教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
教育課程の編成	社会学研究科心理学専攻（後期博士課程）は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる資質・能力を養成するために、知覚、発達、学習、認知、生理・神経、臨床発達の領域からなる特殊演習科目、心理学、生物、神経科学、精神医学、発達科学、応用心理学からなる特殊研究・講義科目、発達臨床、心理学の特殊実習科目から構成される教育課程を体系的に編成します。
教育課程の実施	この教育課程の編成のもと、特殊演習、実習科目を中心とするアクティブラーニング、実地見学・調査や実験を含めるフィールドワーク、特殊研究科目での PBL、特殊実習科目でのインターンシップなどの教育法を組み合わせることで教育を実施します。
学修成果の評価方法	本研究科心理学専攻の教育課程により修得すべき資質・能力目標に対する学修成果の評価は、全塾としてのアセスメントプランの考え方のもと、各科目において定める成績評価基準等に基づいた直接的な指標により行われるほか、各種アンケートや調査等を含めた定量的・定性的、直接的・間接的な指標を用いて評価されます。

<p>資質・能力 目標と教育 内容との関 係</p>	<p>資質・能力目標（１）：心理学について非常に高度で実践的な専門的知識の獲得</p> <p>特殊研究・講義科目では心理学各分野における基礎的な知識、技法から最新の研究動向を含む高度な専門的知識の獲得を目指します。最新のトピックや関連領域の学問の現在については国内外の著名な研究者を毎年非常勤講師、特別招聘教授として数名招くことで、専門的知識の伝達に注力します。</p> <p>資質・能力目標（２）：自立した研究者として実験的応用的研究の実施を可能とする高度な専門的技法の獲得</p> <p>各分野の特殊演習を開講し、関連する専門的論文を読みこなすと同時に、実験的応用的技法を学習します。同様に「心理学特殊実験」では、実験演習科目を受講している学部生に対して教員と共に実験指導を行い、その実践を通して基礎知識の再点検を行います。</p> <p>資質・能力目標（３）：学際的に周辺領域へと接続可能な幅広い知識の運用能力、柔軟な発想力、独創性の獲得</p> <p>「応用心理学特殊研究」「発達科学特殊研究」「発達臨床支援特殊実習」や国内外の著名な研究者による特論・講義科目を通して、主に周辺領域へと接続可能な幅広い知識、それに基づく柔軟で独創的な発想力、思考力、そして社会的に貢献できる資質の獲得を目指します。</p> <p>資質・能力目標（４）：将来にわたって社会的、国際的に貢献できる高度な専門性や汎用能力の獲得</p> <p>「心理学特殊実験」では、実験演習科目を受講している学部生に対して教員と共に実験指導を行い、ある種の「教育実習」としての機能を持たせ社会的に貢献できる能力を育成します。国際的にも高いレベルと評価される国外の研究者を非常勤講師、特別招聘教授として招くことで専門的知識の伝達および研究における発表や討論などのコミュニケーション手法の獲得を目指します。国際学会への参加、発表を奨励し、指導教員を通して専門分野の研究者との交流を促します。</p> <p>資質・能力目標（５）：自立した研究者として高度な学術研究を行うための課題設定・研究計画立案・研究遂行能力の獲得</p> <p>特殊演習科目では自身の学術研究ばかりでなく、参加学生の研究課題、実験立案・遂行などについても積極的に討論を行うことで、実証的な心理学研究の遂行能力を育成します。大学内を含む国内外の研究会や学会への参加、発表を目指した指導を行い、自身の研究の洗練化、最新の実験技法の習得を目指します。</p> <p>資質・能力目標（６）：後進の研究者・高度職業専門人の育成・指導を行うための高度かつ専門的な資質の獲得</p> <p>特殊演習科目では、修士課程の学生を含め異なる背景・経験を持つ学生による研</p>
--	--

	<p>究計画、学術論文、及び研究発表についての相互的、能動的な討論を通して、自身の専門的能力の獲得ばかりでなく、他者の研究に対する適切な理解や批評の力も育成します。これにより後進の適切な指導を行うために必要な高度かつ専門的な能力の獲得を目指します。</p>
--	--

項目	入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）
求める学生像	<p>(1) 心理学についての基礎的専門学力と研究遂行の専門能力を有する学生</p> <p>(2) 明確な問題意識と動機を有する学生</p> <p>(3) 学術研究を遂行するに適した日本語及び外国語運用能力を有する学生</p> <p>(4) 専門的職業人としての研究活動に意欲のある学生</p> <p>(5) 学術研究の成果を研究者及び高度な専門性が求められる職業を通じて国際社会に還元しようとする意欲のある学生</p>
選抜の基本方針	<p>このような入学者を幅広く受け入れるため、(1) 一般入試により選抜を実施します。</p> <p>(1) 一般入試</p> <p>学際的、国際的な特色を有する心理学専攻において研究活動を遂行するにふさわしい語学力（英語）を判断する筆記試験、心理学に関する専門的な知識を判断する論文審査を一次試験として実施します。（本大学大学院社会学研究科修士課程修了者及び修了見込の者は英語の試験を免除します。）</p> <p>博士課程における研究についての問題意識、研究計画、研究遂行能力について確認するための口述試験を二次試験として実施します。</p>